




株式会社セブン&アイ・ホールディングス
2016年2月期 第2四半期決算説明会

2015年10月9日

株式会社セブン&アイ・ホールディングス



2016年2月期第2四半期 業績説明

連結決算概要

● 営業利益・当期純利益ともに3期連続最高益

	15/8期 実績		
	金額	前期比	前期増減
グループ売上*	53,102億円	104.5%	注) 1. +2,273億円
営業収益	29,949億円	99.7%	注) 1. ▲94億円
営業利益	1,724億円	103.1%	+52億円
当期純利益	845億円	100.7%	注) 2. +6億円

注)1. 原油価格下落等による7-Eleven, Inc.のガソリン売上減少影響(為替影響含む) ▲1,097億円

注)2. 17年2月期以降の法人税減税に伴う税効果資産取崩影響 ▲37億円

PL為替換算レート: U.S.\$1=120.30円(前年差: 17.84円 円安)

*グループ売上: セブン - イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

事業セグメント別営業利益

●主にコンビニエンスストア事業が牽引

	15/8期実績		
	金額	前期比	前期増減
連結営業利益	1,724億円	103.1%	+52億円
コンビニエンスストア	1,523億円	111.3%	+154億円
スーパーストア	11億円	12.6%	▲80億円
百貨店 (のれん償却前)	▲8億円 (17億円)	- (69.5%)	▲7億円 (▲7億円)
フードサービス	11億円	-	+10億円
金融関連	241億円	100.5%	+1億円
通信販売	▲47億円	-	▲16億円
その他	19億円	107.4%	+1億円
消去および当社	▲26億円	-	▲10億円

主要事業会社の営業利益

●セブン-イレブン・ジャパン(SEJ)と7-Eleven, Inc.(SEI)は過去最高益を達成

	15/8期実績				増減の主な要因
	金額	前期比	前期増減	既存店伸び率	
セブン-イレブン・ジャパン	1,228億円	106.0%	+69億円	+3.2%	既存店売上伸長と荒利率改善
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	333億円 (27,692万ドル)	138.8% (118.3%)	+93億円 (+4,273万ドル)	+6.4%	既存店売上伸長と荒利率改善
イトーヨーカ堂	▲90億円	-	▲97億円	▲1.3%	既存店売上のマイナスと衣料品の荒利率悪化
ヨークベニマル (ライフフーズ込み) ^{*1}	86億円	100.5%	+0.4億円	+0.3% ^{*2}	既存店売上伸長と荒利率改善
そごう・西武	11億円	64.0%	▲6億円	▲0.4%	高荒利の衣料品売上のマイナス

*1 ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

*2 既存店伸び率はヨークベニマル単体の数値

連結業績計画

●上期の実績を踏まえ、連結業績計画を修正

	16/2期 計画(10/8時点)			16/2期 計画(4/2時点)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
グループ売上*	106,000億円	103.6%	+3,643億円	108,000億円	105.5%
営業収益	61,500億円	101.8%	+1,110億円	64,000億円	106.0%
営業利益	3,670億円	106.9%	+236億円	3,730億円	108.6%
当期純利益	1,830億円	105.8%	+100億円	1,930億円	111.6%

PL為替換算レート:16/2期予想 118.00円から120.00円に変更(前年差:14.21円 円安)

*グループ売上:セブン・イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

セグメント営業利益計画

● 上期の実績を踏まえ、セグメント営業利益計画を修正

	16/2期 計画(10/8時点)			16/2期 計画(4/2時点)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
連結営業利益	3,670億円	106.9%	+236億円	3,730億円	108.6%
コンビニエンスストア	3,020億円	109.1%	+252億円	2,960億円	107.0%
スーパーストア	206億円	106.5%	+12億円	316億円	163.4%
百貨店	76億円	107.7%	+5億円	76億円	107.7%
フードサービス	16億円	-	+15億円	16億円	-
金融関連	500億円	106.0%	+28億円	500億円	106.0%
通信関連	▲69億円	-	+6億円	▲59億円	-
その他	45億円	122.6%	+8億円	45億円	122.6%
消去および当社	▲124億円	-	▲92億円	▲124億円	-

主要事業会社の営業利益計画

● 上期の実績を踏まえ、主要事業会社の営業利益計画を修正

	16/2期 計画(10/8時点)			16/2期 計画(4/2時点)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
セブン-イレブン ・ジャパン	2,350億円	105.2%	+116億円	2,320億円	103.9%
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	764億円 (63,666万ドル)	128.1% (112.9%)	+167億円 (+7,279万ドル)	732億円 (62,033万ドル)	122.7% (110.0%)
イトーヨーカ堂	10億円	53.8%	▲8億円	100億円	537.9%
ヨークベニマル (ライフワズ込み)	176億円	103.4%	+5億円	176億円	103.4%
そごう・西武	120億円	117.3%	+17億円	120億円	117.3%

PL為替換算レート: 16/2期予想 118.00円から120.00円に変更(前年差: 14.21円 円安)

イトーヨーカ堂 上期実績と下期行為計画

IY上期営業利益▲90.6億円(前期差▲97億円) 増減要因分析

■ 営業利益増減	増減額	増減要因	内 容
<p>+4 0 (億円)</p>	+4億円	テナント収入増加	店舗構造改革の推進
	▲26億円	既存店売上減少	上期既存店売上伸び率▲1.3% 2Qのみでは▲0.6%と改善傾向
	▲48億円	荒利率の悪化	* 衣料PBの商品開発~店推奨までの 「仕入れ責任の甘さ」が主因
	▲5億円	値引販促増加	カード会員向けDMセールの実施
	▲22億円	販管費増加	新店▲41億円増・閉店22億円減 既存店▲3億円増 (改装費▲25億円増・他28億円減)

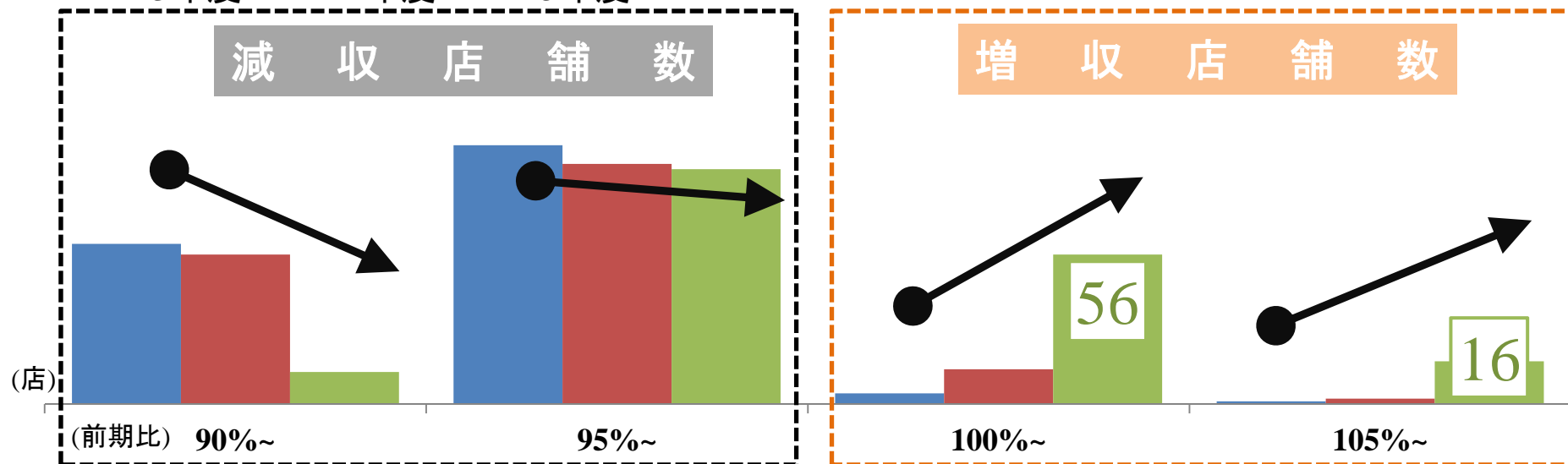
▲101

*** 単品管理に基づき、上期で▲35億円の在庫処分を敢行**

IY上期実績変化の兆し: 個店レベルでの改善は着実に進捗

● 13年度~15年度上期 既存店売上前期比別店舗数の状況

■ 13年度 ■ 14年度 ■ 15年度

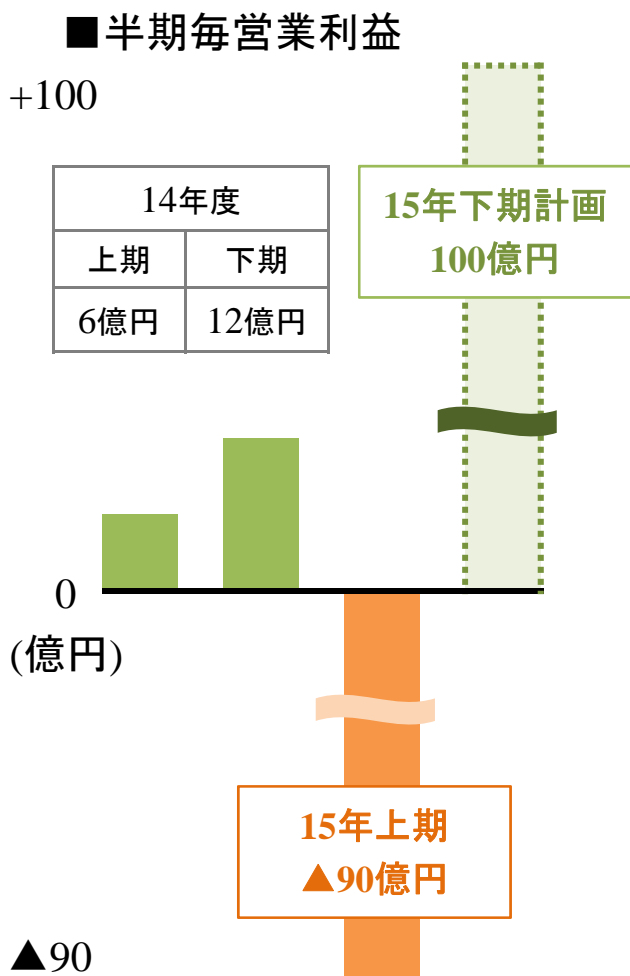


増収店舗数		店舗種別	店舗数	説明
13年度	6	独立運営店舗	5	当初の独立運営店舗9店中5店が増収に転換
14年度	15	構造改革店舗	23	テナントミックスと食品改装を同時に実施した店舗
15上期	72	食品館	10	MD開発から販促を事業部内完結させ伸張
		プライス	8	同上
		他既存店	26	複数与件

GMS浮上は独立運営の定着と、MD開発～販促の連動を実行レベルに移すこと

IY下期重点行為: 足元の変化を受け通期計画を変更

● 営業利益通期計画100億円から10億円とし下期行為を明確化



項目	下期計画	
営業利益	100億円	前期差+88億円の増益
既存店売上	+0.8%	店事業部の機能を強化し、 独立運営の効果最大化
荒利率	30.7%	店舗発注を高める事で ロスを削減(前期差+0.7%)
販管費	▲28億円	人件費・水光費等削減

行為に対して最大の効果を織り込み計画を修正

そごう・西武 構造改革

そごう・西武:オムニチャネル時代の新しい百貨店づくり

問 屋 依 存 体 質 ・ 同 質 化 か ら の 脱 却

●基幹店舗の強化

行 為	内 容
ラグジュアリー 領 域 強 化	<ul style="list-style-type: none">・池袋本店を国内屈指の品揃え実現 池袋のブランド数を大幅拡充等(16年度より着手)・ラグジュアリーブランド専用サイト『e.CASTEL』11月オープン
売場活性化	<ul style="list-style-type: none">・オムニチャネル本格稼働に合わせた自主商品開発と売場連動強化 新たな自主開発商品:物・素材へのこだわり :大人女性への価値訴求 <p>⇒WEBルーミングによる売場活性</p>

そごう・西武：構造改革

●地方店舗の挺入れ

行 為	内 容
店 舗 政 策	赤字店舗の解消 春日部店の閉鎖(16年2月)
売場活性化	・地域特性に合わせた品揃え拡充 『LE* エリアモード』: 地元の伝統工芸・素材の活用 ・新しいサービスの導入 お取り寄せ・ご試着サービス等 ・SC化の推進

本 部 コ ス ト の 削 減 に も 着 手

*LE:リミテッド エディション

補 足 資 料

コンビニエンスストア事業：実績①

セブン - イレブン・ジャパン



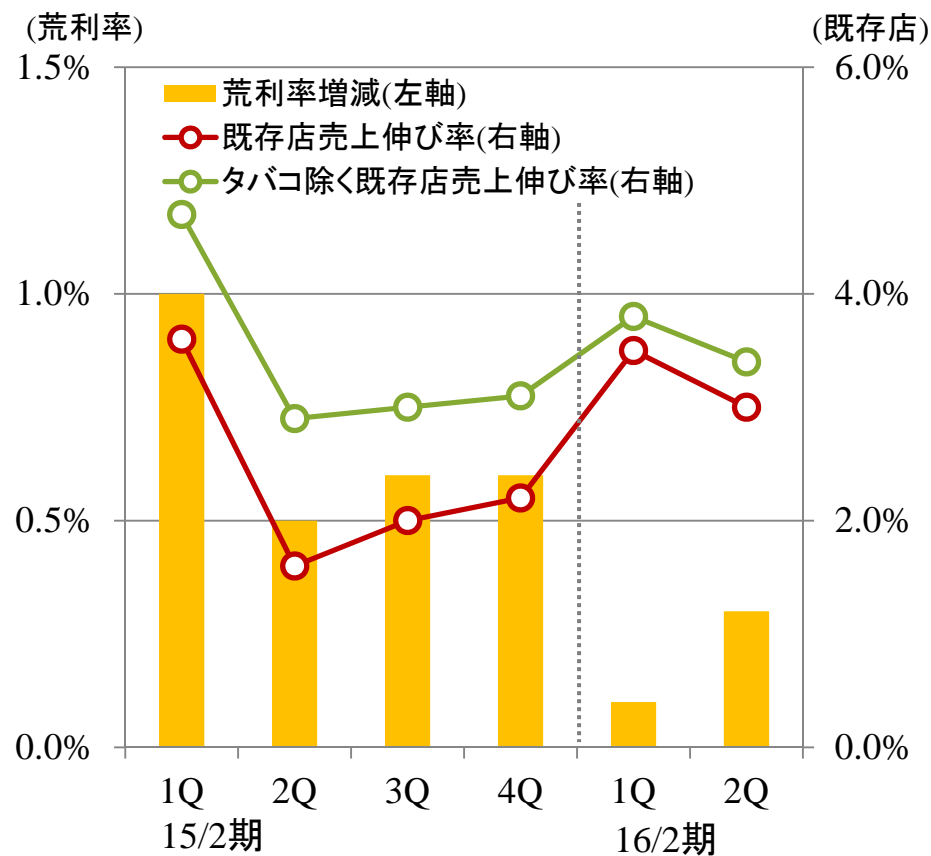
主に既存店売上の伸長により、5期連続で過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	1,228億円	106.0% +69億円
既存店売上伸び率	+3.2%	
商品荒利率	31.6%	+0.2%

概況

- ・既存店売上 : 価値ある新商品の推奨や、おにぎり・サンドイッチ等の基本カテゴリーの更なる品質向上が奏功し伸長
- ・荒利率 : 低荒利のタバコの販売構成比低下影響等により改善
- ・営業利益 : 好調に推移した売上が、販管費の伸びを吸収し、過去最高益達成

■ 四半期別の推移



コンビニエンスストア事業：実績②

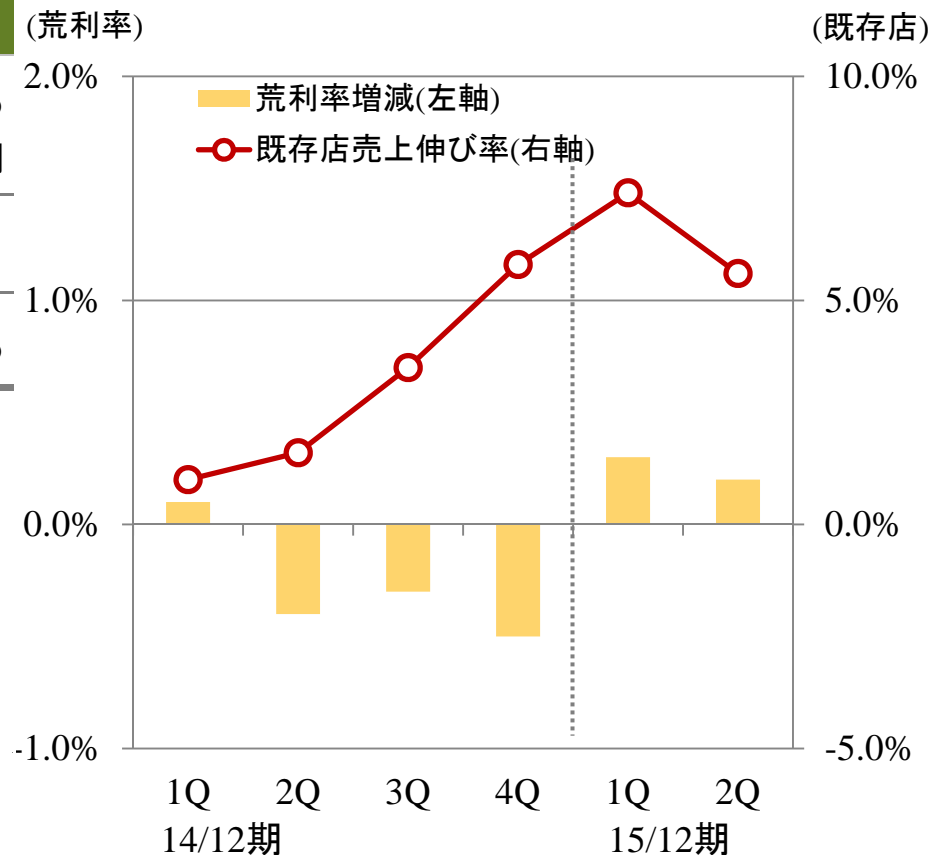
7-Eleven, Inc.



ファスト・フードの販売好調等により米国内既存店商品売上は伸長し、営業利益は大幅増益

	実績	前期比
営業利益	333億円	138.8% +93億円
米国内既存店商品売上 伸び率(ドルベース)	+6.4%	
商品荒利率	34.9%	+0.3%

■ 四半期別の推移
(荒利率)



概況

- ・既存店売上 : ホットフードを中心としたファスト・フードの売上が牽引し大きく伸長
- ・荒利率 : ファスト・フードの好調な販売に加え、ノンアルコール飲料の販売伸長等により前年を上回る
- ・営業利益 : 既存店商品売上の伸長と荒利率の改善に加え、円安影響により大幅増益(円安影響:+49億円)

スーパーストア事業：実績①

イトーヨーカ堂



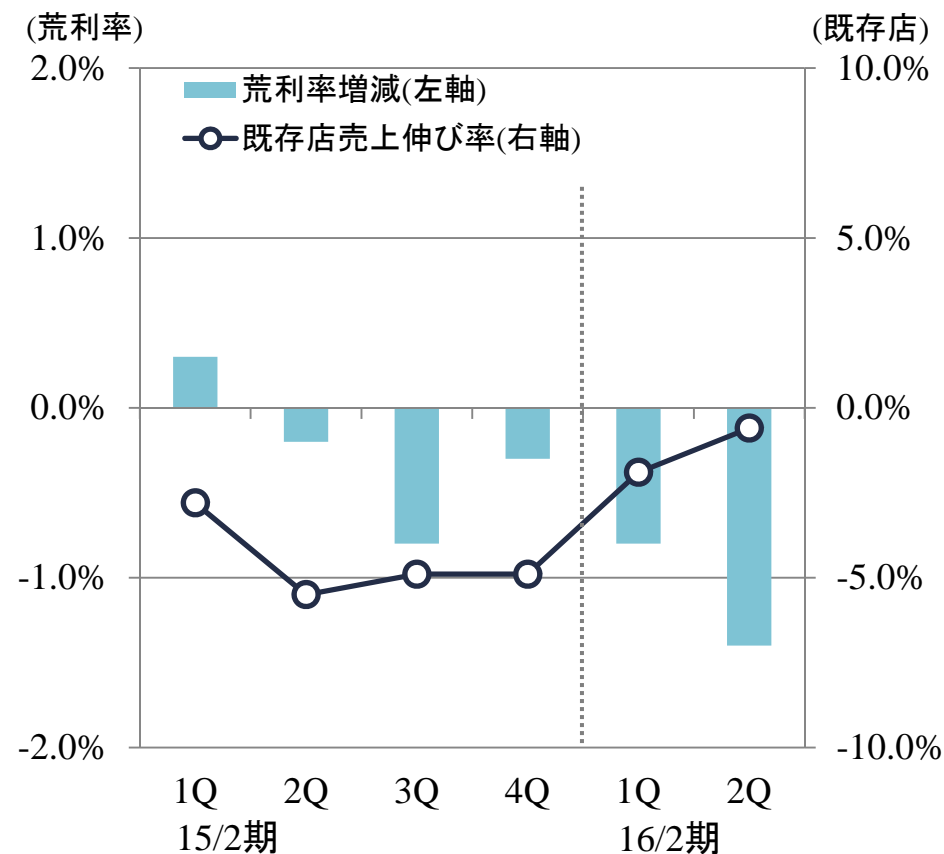
既存店売上のマイナスと衣料品の荒利率悪化等により減益

	実績	前期比
営業利益	▲90億円	▲97億円
既存店売上伸び率	▲1.3%(▲0.7%*)	
商品荒利率	28.8%	▲1.1%

概況

- ・既存店売上 : 主に3月における駆け込み需要の反動の影響と衣料品の売上不振によりマイナス
- ・荒利率 : 主に衣料品における在庫削減の実施と為替円安の影響によりマイナス
- ・販管費 : 地代家賃、水道光熱費の減少はあったものの、宣伝装飾費等の増加により前期比101.3%

■ 四半期別の推移
(荒利率)



*SC合計の既存店売上伸び率

スーパーストア事業：実績②

ヨークベニマル

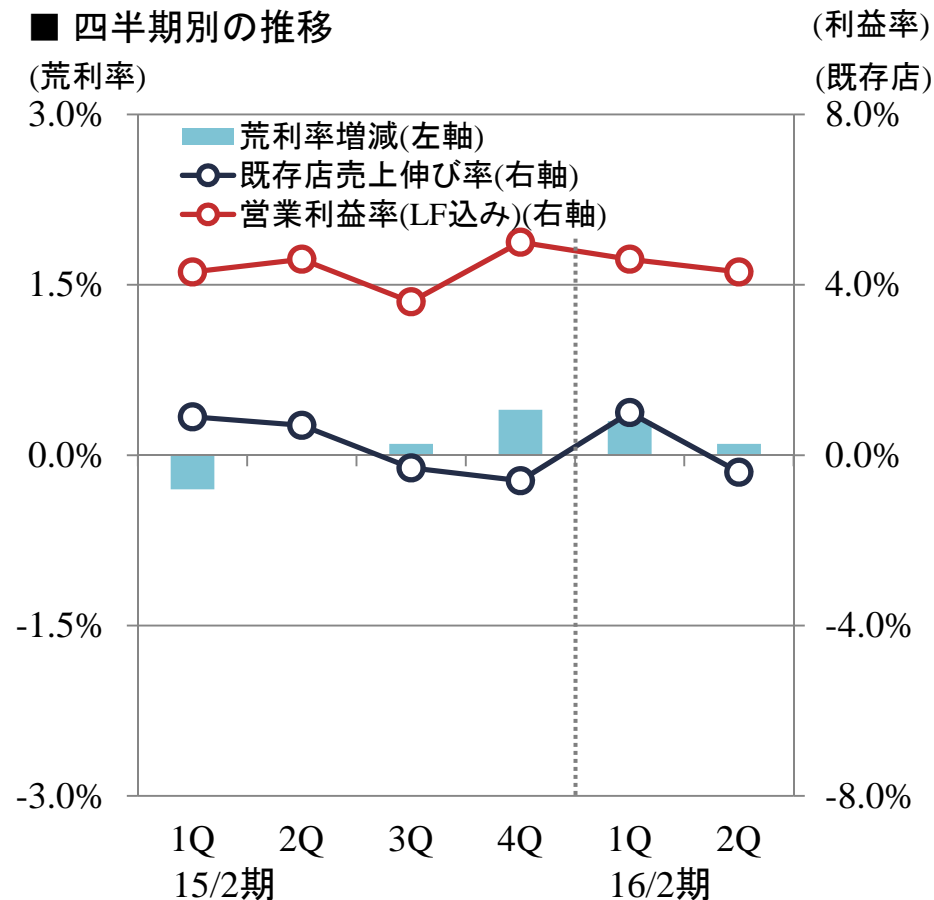


既存店売上の伸長と荒利率の改善により増益

	実績	前期比
営業利益	61億円	100.7% +0.4億円
既存店売上伸び率	+0.3%	
商品荒利率	25.5%	+0.2%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	86億円	100.5% +0.4億円

概況

- ・既存店売上 : 既存店改装と毎週実施のメニュー提案が奏功した食品が牽引してプラス
- ・荒利率 : 食品が好調に推移し+0.2%
- ・営業利益 : 自営のプラスに加え、ライフフーズが好調に推移し、増益



*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマル(YB)の店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

(注) YB+LFの営業利益は管理上の数値です。

百貨店事業：実績

そごう・西武

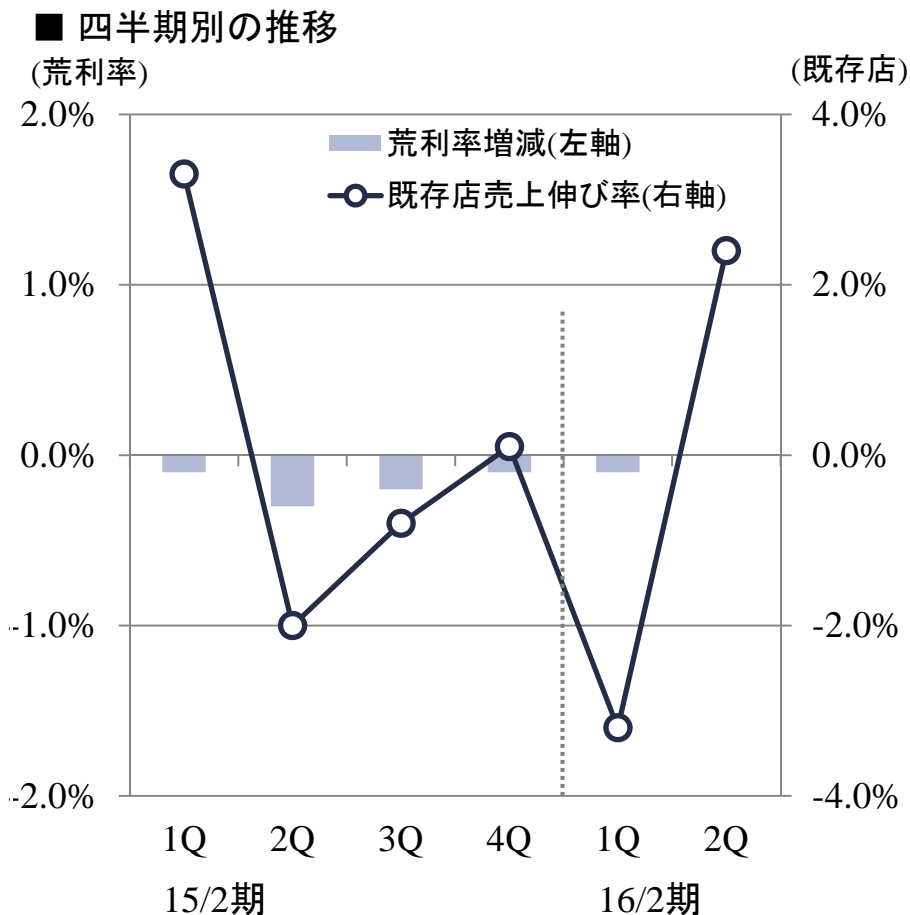


既存店売上のマイナスと荒利率の悪化により減益

	実績	前期比
営業利益	11億円	64.0% ▲6億円
既存店売上伸び率	▲0.4%	
商品荒利率	24.6%	▲0.1%

概況

- ・既存店売上 : 昨年の消費税増税前の駆け込み需要反動が大きく影響したものの、2Qの売上伸長により、上期では若干のマイナス
- ・荒利率 : 高荒利率で売上構成比の高い衣料品の売上低下等によりマイナス
- ・販管費 : 人件費や水道光熱費等の減少により前期比99.3%



本資料に掲載されている業績予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料に記載した予想とは異なる可能性があります。